

50周年記念だより



地域のみなさまに支えられて、おかげさまで今年10月で開院50周年を迎えることができました。ありがとうございます。健康維持を考え、あなたにふさわしい診療計画を立て、患者様の立場にたち納得した治療を行ないます。全ての患者様に安心していただけるようスタッフ一同取り組んでおります。

2017年10月20日発行

～ 野口胃腸内科医院 開院50周年のあゆみ ～

2017年10月 野口胃腸内科医院 野口 光徳

初代院長 野口 哲平



旧第三内科、黒川教室に入室し、電化室（消化管運動）班に所属

属後、福島の大原総合病院の初代の胃腸科部長に着任し、圧迫造影や胃内視鏡検査を導入し活躍しました。また浅木先生などの研修医を育て、大学での活躍を喜んでおりました。仙台の地で開業を意図していたところ、菅原萬様（双葉総合開発元会

長）のご配慮で、昭和42年1967年10月に、現在の幸町1丁目の地に開業いたしました。

黒川先生から賜った色紙にあるように、「心足方常栄…心足りるところ、常に栄える」を胸に、仙台オーブン病院の故望月福治先生など同門の先生達のご助力で、昭和43年のインフルエンザ・アジア風邪の大流行や昭和53年の宮城県沖地震による医院の天井崩落の災害ものり越えて、地域住民の健康維持に仕事を続けて参

りました。医院の前の道路…利府岩切線に沿って、岩切や利府の患者さんや小松島、南光台のかたまで、往診にかがった、と聞き、今も当時の患者さんの家族が感謝して当時の思い出を語ってくれます。

院長室の扉には、宮城県沖地震から何年目と記したメモがいまも貼られています。地震からの復興は、地域の復興とともに、父のところに刻まれていたのです。

第二代院長 野口 光徳



父 哲平が72才時に脳梗塞で倒れてから、金曜午後、土曜日の診療

平成11年（1999年）継承当時の写真です（笑）。

を長男・光徳（39才）が担

当し、医院の診療は継続していきました。当初、1日約55名来院していた患者さんも20人台となっていました。父の病状もすすみ、2007年1月より光徳が副院長となり（46才）、正式に診療を継承しました。消化器内科の専門性を生かすように、「胃腸内科」と新規標榜科に名称変更し、40年目の再スタートをはじめました。

米国消化器病学会が指摘した「今後課題となる分野」すなわち、炎症性腸疾患、逆流性食道炎、過敏性腸症候群、機能的胃腸症、ウイルス肝炎に関して重点的に担当できるように、臨床研究もおこなうことをテーマとしました。

また大腸ポリープに関しては、JCHO 仙台病院での開放型病棟システムを活用し、当院主治医が執刀し、短期入院での一貫した治療ができるようになりました。ピロリ感染胃炎の除菌療法が、保険適応になってからは、対がん協会や各健診施設とも協力し、積極的にポノプラゾンでの除菌療法をおこなう、除菌率95%をこえる治療実績が得られるようになりました。

50周年をむかえて

最近、患者さんからのご紹介やホームページをごらんになった新患のかたが増加しております（レセプト月1200）。ご高齢のかたの信頼される「かかりつけ医」としても研鑽をつづけ、さらに今後とも、地域のみなさまの健康と予防医療のために、日々のくふうをつづけてまいります。

また、つらい症状をお持ちの多くの患者さんをよりよく診療するためにも、今後は、研修医やこれから医師をめざす若い医学生たちを指導教育することのできるクリニカル・ラボとして発展できるように、努力してまいります。

Essay 診察室のかたわらで



「やあ久しぶり、よく来たね。忙しかったでしょう。」そう呼びかけると、はにかみながらいすに腰掛ける若い患者さん。残業が続ぎ、遅い夕食と休めないノルマ。仕事が変わって、慣れない周りとのストレスを抱えながらも、親の看病も続けなきゃいけない自分。胃もたれや喉の違和感、胸焼けが出てきて…
がんばってるね、ほんとに良く頑張ってる。

開業継承して10年、経済は良くなっているけどTVは伝えるけれど、ほくら庶民の実感は、我慢して汗かいて歩きつづけるばかり。

デスクの前で患者さんと共に、作戦会議。どうやって、この状況を乗り越えようか、と。

医療には、①解決できる疾患と②なかなか治りにくくて、対応や対処することが主となる病いがあります。ピロリ菌感染に伴う胃炎や胃潰瘍は、その①にあたり、当院は1次除菌95%の成功率を患者さんとの協力で果たしています。糖尿病

や難病などは、②に相当していて、患者さんに最新の治療データをご教示しながら、ともに治療選択や日常生活の改善を検討しています。すぐには解決できないかもしれないけど、じつと耐えぬいて日々を過ごしている患者さんの心のそばに居続けて支えつづけること。

この診察室のかたわらで、患者さんを理解して、どの年代のかたでも、そのかたの可能性を広げていくこと、いつもそ願って、課題となる物事の本質をよく考えつづけている毎日なのです。



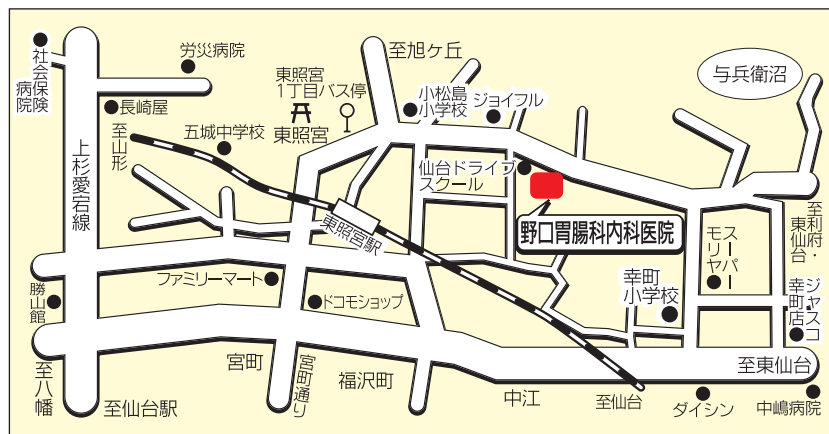
21世紀の医療を実践しよう

子どものころのヒーローは、鉄腕アトムに出てくるお茶の水博士だった。アトムは、正義の味方で強くてカッコいいんだけど、いざアトムが故障したり、困ったときに助けてくれる博士が好きだった。(今で言うアンパンマンのジャムおじさんですね) 中学校から応援団で、高校で応援団長になったのも、全力を尽くす選手の姿を讃えて応援することが好きだったからだろう。

今年、20世紀も17年を過ぎ、もうすぐアトムも誕生するころ。あこがれの21世紀は、僕らの医療も進歩していくはずだ。

①当院では、若い患者さんのピロリ菌

感染を見いだして、早期治療を行ない、将来の胃癌発症の予防医療を実践していきます。また30歳代のかたの胃癌発見と治療にもつなげています。②胃腸症状の問診票(FスケールやFDスコア)を書いていただくことも、21世紀の医療の先駆けです。これは、米国のNIHが提唱する患者中心レポート(PRO)で医療側の修飾なく治療効果を客観的に評価することができる新しい医療の潮流のひとつです。③薬は体質が合わないことで起きる副作用があるのですが、東北大学と連携して、アザチオプリンを安全に投薬できる体質かどうかを遺伝子的に調べることが可能となり、安全な治療が行えるようになりました。そのほか、東北大学とともに、ノロウイルス遺伝子検査による感染対策の研究に協力しています。



〒983-0836
宮城県仙台市宮城野区幸町 1-17-32
TEL 022-234-7305

【電車】
・仙台駅から仙山線 3分
・JR 東照宮駅下車、徒歩で 8分

【市バス】
・東照宮 1丁目下車 8分
仙台ドライブスクール東隣りです。



こちらのQRコードからHPへ飛べます。